



あかしや

山形市立第九小学校

令和7年11月5日 No.7

発行：校長 沼澤 聡

～豊かなくらしを、ともに創り出す子どもの育成～

あかしや学園 第68回開校記念式を行いました。

九小は、今年で、開校68周年になります。これを記念して、10月15日（水）に開校記念式を行いました。

九小は、昭和32年に三小から分かれて開校、平成8年に現在の場所に移転しています。開校の経緯や以前の校舎の場所のことなど、子ども達はもちろん、教職員でもほとんどが知らなかったので、校長挨拶ではそのあたりのことを話してみました。知ることによっても愛校心は深まります。こういう機会も大事にしながら、ますます『あかしや学園』のことを好きになってほしいなと思います。

【校長挨拶から～一部抜粋～】

みなさんが今学校生活を送っている校舎は、平成8年にできました。今から30年くらい前になります。前の校舎は、ここより少し東に行った、馬見ヶ崎川の脇にあったのです。そのころ、このあたりは、ほとんどが田んぼや畑でした。当時学校があったところは、馬見ヶ崎川の氾濫のために荒れ果てていて、所々に畑があったもののアカシヤの木が至る所に生えていたそうです。そこを整地して、できたのが前の校舎です。

九小の校歌の歌詞を思い出してみてください。最初に歌われているのが『荒れ地に育つアカシヤの～♪』ですね。校歌の作詞をしてくださったのは、山形県を代表する詩人・真壁仁さんという方です。この方は、九小最初のPTA会長も務めてくださいました。この真壁さんが、『荒れ地でもたくましく育っているアカシヤの木のように、九小の子ども達も、たくましく、なかよく、生き生きと育ってほしい』と願って作ってくださったのが九小の校歌です。60年も前に作られた校歌ですが、今でも大事にしていきたい思いが込められた素晴らしい校歌だと思います。

これは、平成13年10月、今から25年くらい前のこのあたりの様子を写したものです。校舎は、今の場所に建っています。でも、まわりの様子が今とはずいぶん違いますね。このころは、嶋地区にはお店も住宅もなかったのです。ですから九小の児童数も、430人くらいしかいませんでした。（当時の山形市児童数は、今より3,500人くらい多い。九小のピークは平成29年707人）ですから、このあたりから、どんどん開発が進んできたということです。

今日は、九小の移り変わりを、ちょっとだけお話ししました。ここまでのくらしにも、きっとたくさんの先輩たちのがんばりや苦労、大事にしてきた伝統があったのだと思います。これからの九小を創っていくのはみなさんです。あかしやっ子の精神をしっかり受け継ぎ、未来のあかしやっ子に誇りと自信をもってバトンを渡せるように、これからも一日一日を大切に、学校生活を送っていきましょう。



【児童代表の言葉】

6年 須藤 友梨

九小は今年で68歳になりました。

私が九小に入学する時に、コロナウイルスが流行しました。入学式では、みんながマスクを付けて、家族も1人だけで、2年生以上の人たちもいませんでした。それでも、体育館で自分の名前を呼ばれ、大きな声で返事ができて嬉しかったこと、新しい友達と出会えてワクワクしたことを、今でも覚えています。

そして今、私は九小の最高学年になり、特に勉強に力を入れてがんばっています。全部の教科で予習をしてから授業をすると簡単に分かるのでがんばっています。また、苦手だった人前で話すことが少しずつできるようになってきました。授業中にグループで話したり、学年集会で話したりすることができるようになり、今ここで話をする『挑戦』につながっています。

多くの仲間がいる九小だから、仲間と共に自分の力を伸ばすことができました。今はコロナウイルスの流行もなくなり、みんなと話をして生活したり、学習したりできるようになりました。だから、これからもたくさんの仲間と関わり、この伝統ある九小でがんばっていきたいです。

10月の教育活動から



10/17 九小スタンプラリー



10/22 市吹奏楽発表会



10/30・31 修学旅行

4年生
命の学習



5年生 社会科見学



2年生 学級活動



熊への対応について

今年のニュース等見てみると、熊が市街地にまで出没することは、最早当り前になっているような気がします。山形市内でも連日数頭の目撃情報があり、学校では対応に苦慮しているところ です。

先日は本校学区内にも出没し、その後の足取りがつかめないこともあり、地域を考慮しながら、保護者への引き渡し・一斉下校を2回に渡り、計5日間実施しました。初めての引き渡しでしたが、保護者の皆様のご協力もあり、安全且つスムーズに対応できたことにまずは安心しました。

こういう機会は、今後、増えることが予想されます。児童の安全を第一に考えながらも、できるだけ学校の教育活動を止めず、保護者の皆様にも負担をかけない方法について、保護者や地域の皆様のお知恵も借りながら考えていきたいと思 います。